

7

Mar. 2004

素顔の**阿蘇**を探す旅。

“**あ**”はすべての原点、“**そ**”は蘇生。
阿蘇は原点に返って復活する場所。
素顔の阿蘇に訪れ、
自分自身を探してみませんか。



阿蘇大陸

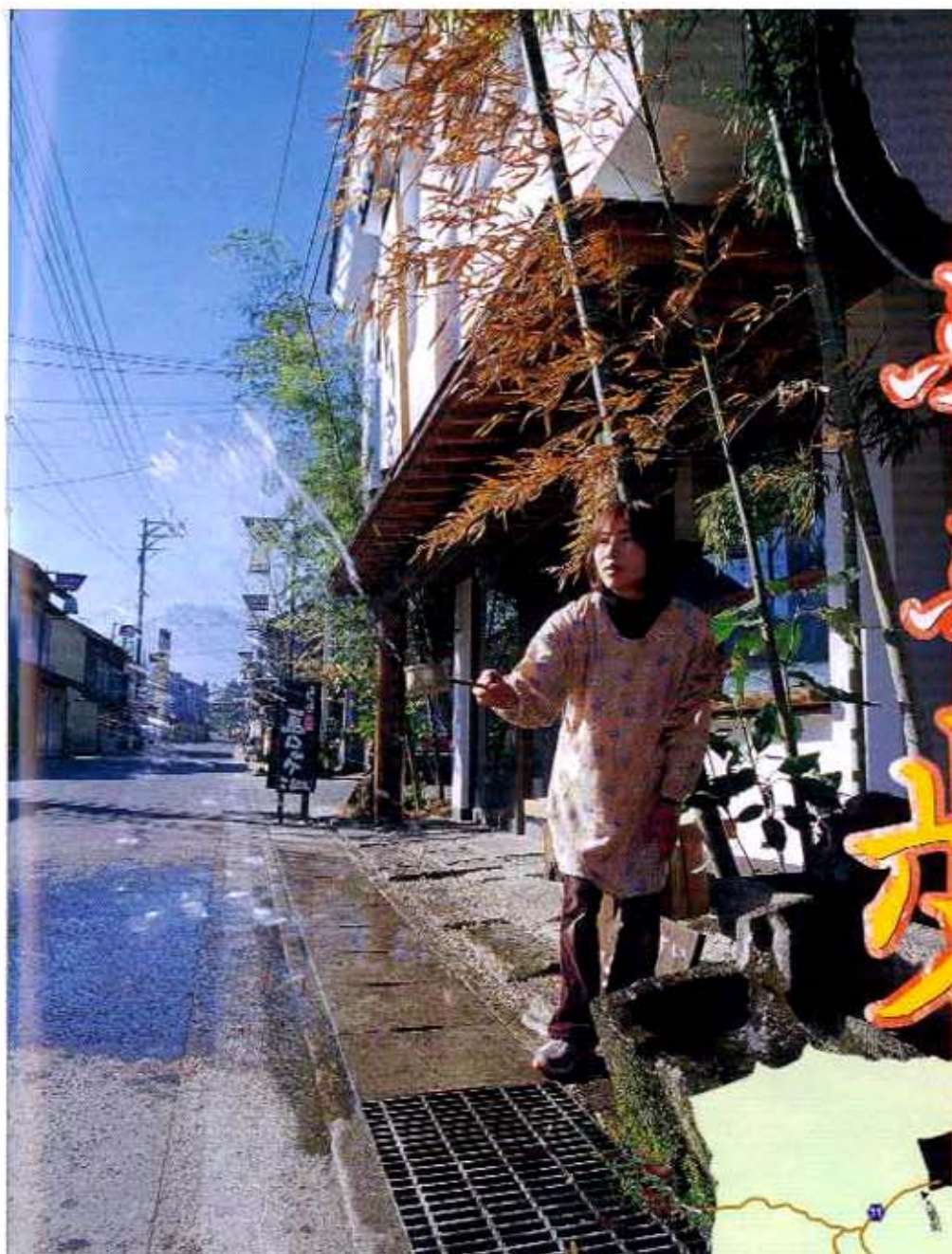
ASO Continent

一の宮町を

ぶらぶら歩

のんびり・あそ時間、阿蘇カルデラツーリズム
ゆったり歩いて、ふと立ち止まって。

一の宮町タウンツーリズム



阿蘇開闢の神・健甕龍命など12神を祭り、「火振り神事」など古式豊かな農耕祭事で知られる阿蘇神社を擁する一の宮町。仙人も酔うかと思われるほど美しいことから「仙酔峡」と名づけられたミヤマキリシマの群生地や古墳群など、自然も歴史も豊かな町だ。ここには、阿蘇神社の門前町として栄えた仲町通り、豊後街道の面影を今に伝える坂梨地区、そして国造神社と名水で知られる手野地区と、さまざまな特徴あるエリアが点在する。車で通り過ぎるだけではわからないが、ゆつくりと歩いてみると、それぞれの地区の風景や人がやさしく迎えてくれるのに気付くはず。一の宮町の知らなかった表情に出会うために、出かけてみた。

仲町通り 商店街 編

“資本は人との交流から生まれる豊かさ” ゆつくりした商店街“を目指して

商店の2代目が作った
“若きやもん会”

昭和40年代の仲町通り商店街は、一の宮町で最も活気のある通り。今で言うところの熊本市の下通り・上通りのような存在で、周辺地区の子供たちからは、仲町出陣とゆうだけでうらやましがられたもので、一、地元で食事は、なびしを経営する宮本博史さんは、子供の頃の思い出をこう語る。仲町通り商店街が最も賑わっていた時代、これに阿蘇神社の農耕祭りが重なった日には、参道から商店街まで人が溢れて大騒ぎになったとか、「でも、この通りも年々寂しくなりました。市が普及して近所に大きなスーパーはありませんが、もう商店街に行く必要はありませんが、この地で代々商売を続けてきた者にとって、その寂れようは客足の減のきと共に実感できた。そんな厳しい時代に店を継いだ若手後継者たちは、将来の不安を隠せない。しかし、だからとゆうて自分の代で店を終わらせるわけにはいかないのだ。景気が悪いのなら、これからの若手が頑張って町を良くしよう。きっかけは、地元の特産店と「一の宮」の2代目、杉本真也さんの一声だった。思っていたことは、他の商店の2代目と同じ。この声を受けて、3

初めて企画・運営をした夜市が大盛況

年前の平成13年に商店街の後継者10人が集まり、若きやもん会を結成した。仲町通り商店街のまちおこしのスタートである。2代目とゆうても、中には銀行員や公務員もいるし、若きやもん会と疑問詞の付く50歳代も2人いる。でもその幅が、いろいろな意見を聞くのに役立っています」と宮本さんは言う。

会は結成したし、名前も決めた。では、最初に何をしよう。まずは商店街に人を呼ぼうという。そこで、昔で昔の賑わっていた通りの記憶を辿ってみた。子供の頃に一番楽しかったのは夜市だ。一通りは人で溢れていた。テキ屋が並ぶのを見るだけでワクワクしたわ。そう、この夜市を復活させよう。この意見には全賛成。早速、平成14年1月から夜の再開に向けて準備を始め、半年後の7月、ようやく開催の運びとなった。片は並んだテキ屋を見るだけで楽しかったが、今の子供たちはそれだけでは喜ばないだろう。実施前は本町に入が来るのが不安もあった。しかし、当日は1000人が集まるほどの大盛況。翌年の夜市には、なんと1日に1



阿蘇神社。仲町通り商店街は阿蘇神社の門前町として栄えてきた。食事どころや特産店、洋菓子店などお洒落な店舗も多い。



▲仲町通りを元気にしよう！「若きやもん会」の中心メンバーの1人が宮本さんだ



▲「若きやもん会」の発起人の1人、杉本さんが経営する特産店「一の宮」。人気の焼肉のタコ焼き・パコ焼きはこの店のオリジナル

仲町通り 商店街 編



一の宮前が古来、水の豊かな町だ。この橋から湧き水が訪れた人にも知られてほしいと仲町通り商店街ではまちに「水基」と呼ばれる水のみ境を設けている



町を散策する人が増えればうれ

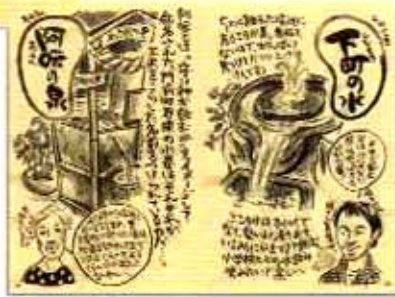
から、自分ものんびり遊んでいます。今後は、二階方家に行ったら何かある、というように、「ここを」の宮町の情報発信の柱にしたい」と言うのは宮本さん。理想は、観光客が二階方家に寄って、得た情報をもとに町を回り、また二階方家に戻ってくるというパターン。それが縁となって、「ここで地元の人と観光客の間で様々な話も生まれるだろう。さらに今後の課題として、阿蘇神社の歴史や文化について案内できるシステムを作るなど、来訪者を過剰させない工夫も求められる。

結果が分かるのは 自分たちの子供の時代

仲町通り商店街では、15年ほど前から水基めぐりや水基めぐりなるものがある。この地区は水の豊かな土地で、町のいたるところに湧き水が湧出し、昔から神の水として住民の生活を潤してきた。以前観光客から「この水は飲めるの？」と聞かれて驚いた。世の中には飲めない水もあるのだから、そこで、これを観光に利用することにしました。若きやちん会では、この水基めぐりを改めて観光客向けに整備し、町の協力も得てガイドマップを制作した。地区内にある14の水基をイラストで紹介した。今風のオシャレな作りには好評です。このマップを「町を散策する人が増えればうれ



水基巡りの散策マップ。4かたで構成。出陣方等ははじめての観光客の方には無料で配布されている



しいですね。このように、地元には外からの声によって気づかされる。価値ある観光物件がまだまだ取って置ける。それを発掘するのもまた取って置ける。若きやちん会の活動は、10年後、20年後まで見据えている。例えば、通りには空き家の店舗も多いが、それらを壊さずに活かすことも、家の中、建築家の経歴を持つ宮本さんは「将来は昔の門前町のような、田舎が田舎らしい景観を造りたい。観光客もここに来れば癒される。ゆっくりにした商店街が理想です」と語る。ゆっくりにした時間が流れる町、観光客にこの土地のリズムに合わせ、田舎を楽しんでほしい。最終テーマは、人が誇りを持ちたいのだ。最終テーマは、人が誇りを持ちたいのだ。最終テーマは、人が誇りを持ちたいのだ。



4階には阿蘇神社の歴史や文化の展示もそのままだ。1階には水基めぐりの情報が紹介されている。
▼まずは地元の人に来てほしいと、水基めぐりの情報は観光客に紹介している



500人客を接客する暇くべきに、接客があった。実は、夜中は商店街が地元の人に開けて行く感謝祭のようなもので、観光客を呼ぶイベントではない。では、何がそんなに受けたのだろうか。宮本さんは「私たちの頑張り、やる気でしょう。人は人だしが呼ばないと思えます」と語る。10人の小さな船の中から始まったことが、やがて10人の船から溢れ出し、その流れを受け、人たちが客として来てくれたんです。

「ここにきたら何かある」の情報発信源。若きやちん会の活動拠点は、商店街沿いにある「ふもとときやちん」旧二階方家。二階方家は築90年の古い民家で、以前は床が落ちて寝も腐っていたものを会社が借り受け、自分たちで改装。館内に町の古い写真を展示してギャラリーにした。その後も、おしゃべりしたり、そんなコミュニケーションセンターの要素を持ち合わせた町の拠点とするのが目的だ。しかし、そのためには、まず地元の人にとんどん利用してもらわなくてはならない。



上質の素材で丁寧に仕上げたケーキが自慢の「たのび」。ご主人も「若きやちん会」のメンバーだ

さかなし宿場通り編

地域に対する愛情をカタチにしよう
歴史から学ぶ、新しい“まち”のありかた



▲豊後街道の宿場町の姿を今に伝える復元地区。木の柱と白壁のまちなみが特徴。
◆まちづくりのメンバーは、自分たちのまちの歴史を学ぶと当時の様子なども調べ、案内板を制作



細い路地に行き古い家並みと飯屋、風情のある常夜灯...まるで江戸時代に迷い込んだような一の宮町坂製地区は、その昔、参勤交代の旅籠や茶屋が道々に軒を連ね、坂本宿として栄えた豊後街道の中継地。この場所でも、地域の再発見をテーマに新しいまちづくりが進められている。

時代の流れと共に意識化が進み、町の中心だった豊後街道も空き家が目立つなど寂れた感が目につくようになってきた坂本地区。この宿場町を守りたいと思つてと語るのは、発起人の赤原孝さん。平成11年1月、赤原さんの「宿場町を復活させていこう」との呼びかけのもと、50歳前後を中心とした若者男女30〜70歳の40人が集まった。坂本地区まちづくりの会「さかなし宿場町」の誕生だ。

この会の面白いところは、地域に人を呼ぶことだけが目的ではない点。主な活動は勉強会。月一回の会合で歴史を学び、地域の良さを再認識していく。まちおこしです。一見すると地味な活動だが、会の結成から今年で5年。参加者の中には自分の住んでいるところが古い歴史のある町だと知り、より愛着と誇りを感じるようになったという。この声も、成果は住民の意識という日に見えないところで徐々に現れているようだ。

この会は意見交換の場でもあり、これまでには苦が持ちあつた様々なアイデアをカタチにしてきた。もちろん、それも全て観光客ではなく住民のための提案。その第一号が、通りに並ぶ常夜灯だ。当時は薄暗く、子供が一人で歩くには寂しい雰囲気だった豊後街道。これを明るくするため、街灯を設置しようという意見が出た。それも「宿場町に似合う街灯を」と。そこで話し合いを重ねた結果、和風の常夜灯を設置することになった。まちづくりの歴史に関する資料があつたことから、それぞれに歴史を入れて宿場町らしさを演出。現在、通り沿いの35戸に常夜灯が並び、周囲を暖かい光で照らしている。実は費用は各家の負担なのですが、子供たちが安心して通れるなると情、快く協力してくれました。と語るのは、会の事務局を務める志賀雄さん。さらに街並みを守るため、無機質なプロック塀を暖かみのある板無に建て直し、現在はシンボルとなる関所づくりに力を入れている。この費用も住民の浄財だが、一町が良くなるなら誰か又句は言わないのだ。家を建てる場合は和風にするなど、今後のルールも決めている。かつての宿場町は今、少しずつ昔の面影を取り戻してきている。



坂本地区で評判の豆腐店「きくら豆腐」。豆腐揚げはもちろん、豆腐ステーキや豆腐入りナースケーキなどオリジナル商品も人気がある



まちづくりの会の発起人である赤原孝さん(右)。事務所の高層ビル(左)。まずは自分たちのまちを知って、自分たちが元気になろうと決めた。



家々には「虎屋」など当時の屋号を使用した常夜灯がともされる



まちづくりのメンバーの1人が自費で作った水路と水車。自費の負担に助けられ、江戸時代の面影を今に伝える

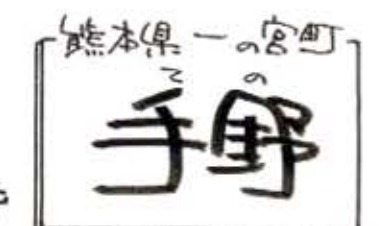
新築の建物があつた。新年を迎えようとして新しく作らさるのだから... (絵のついで) 社あり。良質なご利益があるようだ。



風通神社

上野寺・下向寺石塔 (復興跡)

東郷の石に馬頭観音。おまじない? などおまじないがある。中には直派の石の祠もあるよ。



熊本県一の宮町の
手野

北
0 100 200 300 400 500 m

太い梁のある直派の牛舎があとに少し残っていた。今はトロッコ一庫や自家用車の車庫になっているよ。おまじない? 何冊かでは、赤平が紅葉を撮っていた。

高台の道の道幅が... 右の段下は左の段下がすくなく... 左の段下は、背丈より高くすくなく積まされたよ。

未だにある中田の石塔は、10月に作られた。スローな阿蘇の日は、この石塔の立ち寄り客として、自派の歩いて訪れる人に休憩所として、お茶なども提供されたよ。

谷水が家の間を何本か流れている... 溜り溜りは水たまりのたまりか。

石の(御明王?) の石にミ/4シ plusは、み/4下、てんた

倉庫の板戸に糸した。おまじないの石。おまじないの石。おまじないの石。

歩いた日: 2003年12月11日(木)
歩いた距離: 約6km 矢野角

マップ by 小川幸 / 絵 by 橋本三郎

西手野の集落は阿蘇古代の里... 民権村か。より、78軒が営業しているよ。農業体験もでき、学生たちの合宿がのびるよ。

近江寺

近江寺があとに... 1号塔の、ハには馬頭観音さんがあつた。



⑥ 外野の子でランチを食べていたら、三つのおまじないが倉庫の中にもあつた。手づくり味噌が何種もあつた。

START GOAL 土井バスター

寄り道して、4月の春祭りと、おまじないのたまりか。

① 田んぼの中にひとりとくたが... 竹と田んぼの間に竹の間に、おまじないのたまりか。このあたりで飼われている牛の飼料だよ。



温泉地



因造神社
阿蘇開拓の祖神、健甕龍命の第一子、因造道成王命をはじめ四神をまつ神社。境内はラッセウとしたスギ、ヒノキなどの巨木が多く社殿も雰囲気が漂う。周辺にある因造神社の森は、県民投票で選ばれる「新木緑の百景」の一つに選ばれた。



中通古墳群
4世紀から7世紀にかけて築造されたとされる古墳群。全12基あり、前方後円墳2基、円墳10基が半田水田中に美しい姿を見せている。かつては15基以上の古墳があったとされ、古代から強大な勢力と支配力を持った阿蘇群一族と深い関係があるとされる。



手野の女水
国策神社から山側に500mほど上がったところにある。岩の裂け目から清水が湧き出ていることでも知られる。「隠れた名水」といわれ、町内外から水を汲みに訪れる人も多い。

手野・中通



民宿 みやのまえ	0967-22-2164	阿蘇郡一の宮町手野2282
民宿 五箇	0967-22-2159	阿蘇郡一の宮町手野2452
民宿 つかさ	0967-22-2791	阿蘇郡一の宮町手野1988
民宿 手野	0967-22-2002	阿蘇郡一の宮町手野427
民宿 甲井	0967-22-2925	阿蘇郡一の宮町手野1761
民宿 むかい	0967-22-2661	阿蘇郡一の宮町手野1074
民宿 やまざと	0967-22-2073	阿蘇郡一の宮町手野1070

古代の里民宿村 民宿みやのまえ
古代史と神の見守る中、山の幸のおもてなし

手野の女水と噂される清冽な湧き水と因造神社で知られる一の宮町手野地区。神をいまだにふさわしい外輪山の中腹に、「古代の里民宿村」として7軒の民宿がある。

中でも山菜料理がおいしいことで知られる民宿みやのまえは、手野で最も古い宿の一つで1981年9月に開業。「ここは山の中でしょうが、山でしか採れるものを、と思うと山菜料理でしょうな。そんな、山菜料理を食べさせるのはうちがらだった」と主人の工藤元雄さんは話す。今でも黙立は野菜中心で、山菜のてんぷら、ヤマメ、のっぺ汁と郷土だが心のこもった手料理は福岡県や熊本市内からの客に人気がある。「この辺りは古畑ばかりですわい」。歴史の古さも、工藤さんの密かな自慢の一つのようだ。古代史がひっそりと息づく神の御前の地では、今日も心づくしの山の幸が訪れる人をなごませる。



ASO Design Center
Information

(財)阿蘇地域振興デザインセンターは阿蘇郡12町村の地域づくり、観光振興、環境・景観保全、情報発信を行なっています。

阿蘇地域花情報

※見ごろについては、天候、気温状況により変わる場合があります。

高森町 千本桜
見ごろ ●3月下旬～4月中旬(桜まつり)
お問い合わせ ●高森町商工観光課
TEL: 0967-62-1111



一の宮町・阿蘇町 ミヤマキリシマ
見ごろ ●5月初旬～6月初旬
お問い合わせ ●一の宮町 仙酔院 つつじ祭り実行委員会
TEL: 0967-22-3111
阿蘇町 中岳付近 阿蘇町観光協会
TEL: 0967-32-1960



久木野村 菜の花
見ごろ ●4月初旬～5月初旬
お問い合わせ ●(有)くぎのむら
TEL: 0967-67-0879



白水村 一心行の桜
見ごろ ●3月下旬～4月初旬
(桜さくら植木まつり)
お問い合わせ ●園花情報テレホンサービス
TEL: 0967-65-5888



波野村 すずらん
見ごろ ●5月中旬～8月初旬
(すずらんまつり)
お問い合わせ ●波野村役場企画観光課
TEL: 0967-24-2001



マークのお話
このマークは、A=阿蘇、S=山から湧き出る川(水)、O=阿蘇の山(山)というように阿蘇の自然をシンボリックに表現した。